

重点取組名	パン用小麦「ゆきちから」の商品性向上															
普及活動担当	宮城県美里農業改良普及センター先進技術班															
主要な活動地域・対象農業者	鹿島台町S転作組合及び管内の「ゆきちから」生産集団（全75集団）															
取組結果・成果 <取組みのねらい>	<p><取組のねらい> 「宮城県学校給食会」で作られるパンの原料となる「ゆきちから」に対し、実需者側から安定した量と高い品質が求められていることから、ゆきちからの生産集団を対象として、現地検討会等において肥培管理、病害虫防除、適期収穫等を指導し、商品性（品質）の高い小麦の安定生産を支援する。</p> <p><取組結果> ゆきちから生産上の問題点 課題解決方法 結果 施肥技術が未確立 タンパク質含有率が上がりにくい 施肥技術確立試験（タンパク質含有率12%以上）の実施（実証ほ設置） 幼穂形成期，減数分裂期，穂揃期の3回追肥によりタンパク質含有率12.6%確保 他の小麦品種に比べて穂発芽しやすい 収穫時期の降雨による品質低下の恐れ 穂水分測定による成熟期予測技術確立（適期収穫で穂発芽を防ぐ） 予測日と実際の成熟期のズレは，0～1日。成熟期及び刈取適期ほぼ予測可能 赤かび病抵抗性は「やや弱」 開花期～成熟期の降雨による収量・品質低下の恐れ 防除の回数，散布間隔等と赤かび病の発生状況を関係機関とともに調査 開花初期が第1回目の防除適期，その後7～10日間隔で合計3回の防除実施 赤かび病の発生が減少</p> <p><成果> 得られたデータをもとに「ゆきちから栽培ごよみ」を作成 生産は1営農センター管内から全営農センター（6センター管内）に拡大</p>															
連携機関，協議会等	J Aみどりの，NOSA I大崎，管内市町村，宮城県古川農業試験場															
取組の特徴や取組に際しての工夫	<p><効果的であった普及方法等> 実証ほの設置 ・実証ほでの生育状況を基に，技術情報の提供ができた。 ・現地検討会のたびに実証ほを巡回し，各生産集団のほ場との生育ステージのズレを確認し，適期に管理ができた。</p> <p>現地検討会の実施 ・播種後越冬前，幼穂形成期前，減数分裂期前，成熟期前の現地検討会を実施し，生育状況を確認しながら，適切な肥培管理を実施することができた。</p> <p>栽培ごよみの作成 ・栽培ごよみを作成することにより，ゆきちからの栽培技術を統一し，全集団に周知させることができた。</p>															
【参考】	<p>ゆきちから栽培面積の推移（J Aみどりの管内）</p> <table> <tr> <td>平成14年産</td> <td>0.5ha</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15年産</td> <td>4ha</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16年産</td> <td>57ha</td> <td>生産量 240t（1等44%，2等47%）</td> </tr> <tr> <td>17年産</td> <td>193ha</td> <td>521t（1等0%，2等83%）</td> </tr> <tr> <td>18年産</td> <td>311ha</td> <td></td> </tr> </table>	平成14年産	0.5ha		15年産	4ha		16年産	57ha	生産量 240t（1等44%，2等47%）	17年産	193ha	521t（1等0%，2等83%）	18年産	311ha	
平成14年産	0.5ha															
15年産	4ha															
16年産	57ha	生産量 240t（1等44%，2等47%）														
17年産	193ha	521t（1等0%，2等83%）														
18年産	311ha															